

日に日に秋が深まる季節となり、肌寒い日が続く今日、兵庫県立尼崎小田高等学校の創立50周年に際し、生徒を代表いたしまして喜びの言葉を申し上げます。

尼崎小田高校は昭和47年4月に尼崎市立小田南中学校の地を借りて、開校式および第一回入学式を行い、その歩みをスタートさせました。その後、平成15年にサイエンスリサーチ科とクロス・カルチュラルコースを設置、平成24年にはクロス・カルチュラルコースを国際探求学科に改編し、平成25年に看護医療・健康類型が設置され今に至ります。

また、平成17年より文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール事業の研究指定を受けており、普通科をはじめ3つの学科が設置されている本校では、様々な活動が行われてきました。特に探究活動では、自分自身が興味・関心をもつテーマの中で、自ら課題を設定し、その解決の糸口を見つける取り組みをしています。その中で、培われた問題解決能力は、学習はもちろん地域の方との交流等、多方面で発揮することができています。さらにこの数年においては、新型コロナウイルスの感染拡大によって様々な制限がある中で、複数の部活動が県大会以上の大会に出場し、活躍しています。また、小田高祭や遠足、スポーツ大会などの学校行事も感染拡大を防ぐ工夫をして行っており、私たち生徒会執行部も感染症対策と行事を楽しむことの両立を考えながら今年度の小田高祭を作り上げました。

本校は、「Plain Living and High Thinking」「生活は簡素に、理想は高く」を校訓とし、高い知性、すぐれた徳性、強い意志と身体、及びおだやかで豊かな心を持ち、人類・国家・社会に貢献する人物の育成という教育指標のもとで、今日にいたるまで17,045名の卒業生を輩出してきました。卒業生の中には、様々な分野で活躍されている多くの先輩方がいらっしゃいます。

私は高校3年間という限られた時間の中で得た経験や知識は、これから社会に出ていく中で必ず役に立つものだと考えています。このような貴重な時間を、尼崎小田高校の生徒として過ごせること、また創立50周年という節目の年に立ち会えたことを、大変うれしく思います。

今日まで、尼崎小田高校が50年の時を刻むことができたのは兵庫県、そして尼崎市の関係者の皆様をはじめ、地域の方々の支援があつてのことであり、また歴代の生徒会や先輩方が、今の私たちまで歴史の歩みを止めることなく繋ぎ続けてくださったことの賜物だと思っています。

50年という長い時の中で、阪神淡路大震災や新型コロナウイルスの感染拡大など、予想だにしないたくさんの方々の困難を経験してきましたが、その時代の小田高生のがんばりで、尼崎小田高校は素晴らしい学校へと進化し続けています。現生徒会執行部では、尼崎小田高校公式Instagramの開設など時代のニーズに合わせた新しい取り組みにも挑戦しており、これからも小田高生が一丸となって、歩みを止めず、創立100周年に向かってさらなる発展に力を注いでいきたいと思っています。

最後になりましたが、兵庫県立尼崎小田高等学校の輝かしい未来を願い、喜びの言葉とさせていただきます。

令和3年11月3日 生徒代表 生徒会長 長谷川 夏己